

人間はどこに進んでいくのか



北陸予防医学協会施設長 山上孝司

地球上の生命は、約 40 億年前に誕生したと考えられています。最初の生命は単一の細胞からなる細菌と考えられており、その後約 12 億年前に多細胞生物が誕生し、4 億年前に脊椎動物が出現したと考えられています。恐竜は約 2 億 3000 万年前～6600 万年前まで存在し、おそらく隕石の衝突によって大多数が死滅し、一部は鳥類となって現在まで行っています。

私は生命には 2 つの本能があると思っています。1 つは自己保存・種族保存の本能、もう 1 つは、進化に向けてチャレンジする本能です。現在地球上に存在している唯一の人類であるホモ・サピエンスは、文字と言語を発明し大脳を発達させてきましたが、生命の 2 つの本能のうちのチャレンジする本能を、他の生命体より多く持っているのではないかと思います。それが科学技術、文化・スポーツ、宗教・哲学・モラルなどを発展させてきたのではないかと思います。

一方、自己保存・種族保存の本能は徐々に小さくなり、自分の健康より仕事を優先させたり、子供の命より自分の命を大事にする人が増えているように感じます。またお金に対する欲望が膨らみ、必要以上にお金を儲けることに生きがいを感じている人も多く見られます。その結果、富の偏りが生じ、貧富の拡大が起こり、いろいろな民族、国家の対立も拡大している昨今です。

先進国では、公衆衛生の向上、医療技術の進歩、病気を予防する意識と実践などによって、平均寿命はどんどん延びていますが、慢性的に飢餓が生じているところ、紛争が絶えないところ、医療や公衆衛生が遅れているために、平均寿命が 40 歳に満たない国もあります。また二酸化炭素の排出量の増加による地球温暖化、森林伐採による里山の縮小、原子力発電による放射能被爆など、自然破壊がどんどん進んでいます。

私たち人類は、限りない自らの欲望を追及して行った場合、この地球上で長く存在する

ことができるのでしょうか。あの恐竜でさえ、地球上に1億6000年以上存在していたのですが、ホモ・サピエンスは誕生してからまだ10万年ほど、人類の起源であるオーストラロピテクスが生まれてからでも、たった300万年しか経っていません。もし私たちが種族の保存にとって何が大事かを忘れて、自らの存在自体を危うくするとしたら、ホモ・サピエンスは恐竜よりも短く、数百万年ほどで、いやあと数十万年、いや数万年で地球上から姿を消していくことになるかも知れません。種族保存にとって何が大事で、何がそれを妨げるのか、もっと皆が考えるべきではないでしょうか。いや、数万年たって人類が滅亡しようが、自分には関係がないという人も多いかも知れません。

もし私たちが、地球上の生命において最も進化している、最も幸福であると思うなら、ホモ・サピエンスが生まれるまで、いろいろな生命体が進化に向けてチャレンジしてきたことを、あと数万年で無駄にしてしまうというのは、大変大きな罪であると思います。